

# 平成28年度 生態学研修（基礎コース）ご案内

このたび IGES 国際生態学センターは、森づくりや自然再生などの活動を技術的に支えるリーダー的人材の育成をねらいとした生態学研修（基礎コース）を下記要領で開催いたします。

本コースでは、「植生の見方・調べ方」をテーマとし、植物社会学の基礎概念や植生調査方法などについて、室内講義と野外実習を通して理解を深めます。皆様のふるってのご参加をお待ち申し上げます。

## 日程：平成28年7月5日（火）

- 10：00-11：30 植物社会学の理論と基礎概念  
村上雄秀（IGES 国際生態学センター 上席研究員）
- 13：00-14：30 自然教育園の自然とその変遷  
萩原信介（国立科学博物館附属自然教育園 名誉研究員）
- 14：45-16：15 植生調査ことはじめ（野外での植物観察）  
萩原信介（国立科学博物館附属自然教育園 名誉研究員）

## 平成28年7月6日（水）

- 10：00-11：30 植物社会学的植生調査法 I（野外）  
奥田重俊（横浜国立大学名誉教授）
- 13：00-14：30 植物社会学的植生調査法 II（野外）  
奥田重俊（横浜国立大学名誉教授）
- 14：45-16：15 標本整理と植物種の同定  
奥田重俊（横浜国立大学名誉教授）

## 平成28年7月7日（木）

- 10：00-11：30 「日本の植生」へのいざない—海辺から高山まで  
鈴木伸一（東京農業大学短期大学部 教授）
- 13：00-14：30 植生調査結果の見方  
矢ヶ崎朋樹（IGES 国際生態学センター 研究員）
- 14：45-16：15 植生景観史入門—150年前の植生を読み解く  
原田 洋（横浜国立大学名誉教授）
- 16：15-16：30 閉講式・修了証授与

会場：国立科学博物館附属自然教育園（東京都港区白金台） 第1講義室

参加費：一般14,000円（学生7,000円）

募集人員：20名（申し込み先着順）

※本コースは個人の知識や技能を高めることをねらいとした技術研修です。全ての講義を受講された方には、最終日に修了証を授与します。

申込方法：ファックス・メールのいずれかで下記までご連絡下さい。

※お申し込みの際は、お名前、ご連絡先（ご住所、電話番号、メールの場合はアドレス）、ご所属、年齢、一般/学生の種別をお知らせ願います。後日「払込用紙」を送らせていただきますので、郵便振替にて参加費をお支払い願います。

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター (IGES-JISE)  
〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-14-27 新横浜第一ビルディング 3階  
ファックス：045-472-8810 メール：ecoinfom@jise.jp（担当：大槻）  
電話：045-548-6270（お問い合わせ受付/月～金 9:30～18:00）



# 講師紹介



## 奥田 重俊 (おくだ しげとし)

横浜国立大学名誉教授

理学博士 (東北大学)

1936年、秋田県生まれ。千葉大学文理学部卒業後、国立科学博物館附属自然教育園技官、横浜国立大学環境科学研究センター助教授、同大学教授を経て、現在、横浜国立大学名誉教授。地域フロラ (植物相) に精通し、横浜国立大学を退官後も植物観察グループ・コミュニティを主宰し、一般市民や学生の指導に取り組む。著書は、「日本植生誌全10巻」(至文堂)、「河川生態環境評価法」(東京大学出版会)、「日本野生植物館」(小学館) など多数ある。



## 原田 洋 (はらだ ひろし)

横浜国立大学名誉教授

学術博士 (北海道大学)

1946年、静岡県生まれ。横浜国立大学教育学部卒業後、横浜国立大学助手、助教授、教授を経て、現在、横浜国立大学名誉教授。土壤動物の生態をはじめ、環境保全林の機能評価や過去の植生景観を題材とした研究成果が多数ある。著書は、「自然を調べる」(木馬書館)、「現代日本生物誌6 マツとシイ」(岩波書店)、「植生景観史入門」(東海大学出版会)、「小さな自然と大きな自然」(東海大学出版会)、「環境保全林」(東海大学出版会)、「土壤動物」(東海大学出版会) など多数。



## 萩原 信介 (はぎわら しんすけ)

国立科学博物館 名誉研究員

1947年生まれ。1973年東京大学大学院農学研究所修士課程修了後、国立科学博物館附属自然教育園に入館。国立科学博物館附属自然教育園の研究主幹、名誉研究員として、都市林、ブナ林、生物季節の研究、自然観察の指導などに取り組んでいる。主な著書に「木の本」、「野の花道ばたの草」(以上、福音館書店)、共著として「植物の世界」(ニュートンプレス)、「日本野生植物館」(小学館) などがある。1987年、「木の本」で児童福祉文化賞を受賞。



## 村上 雄秀 (むらかみ ゆうひで)

地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 上席研究員

博士 (学術) (広島大学)

1955年、東京都生まれ。1977年立教大学理学部卒業。財団法人国際生態学センター主任研究員(1993-1999年)、同センター専門研究員(2000-2007年)を経て、現職。IGES-JISEでは「アジア・太平洋地域を中心とする植生体系の調査・研究」、「生物多様性の保全に関する植生学的研究」を担当。近年は東日本大震災復興のための植生調査にも取り組んでいる。著書には、「日本植生誌全10巻」(至文堂)、「図説 日本の植生」(朝倉書店) など、植生学に関するものがある。



## 鈴木 伸一 (すずき しんいち)

東京農業大学 短期大学部 教授

博士 (学術) (横浜国立大学)

1958年、群馬県生まれ。1979年明治大学農学部卒業。群馬県公立高等学校教諭(1987-1998年)、(財)国際生態学センター主任研究員(1998-2007年)、IGES 国際生態学センター主任研究員(2007-2008年)を経て、現職。日本国内外での植物社会学的調査・研究をはじめ、主に里山を中心に植生や植物相に係る研究を進めている。著書には、「日本植生誌第3-10巻」(至文堂)、「よこすかの植生」(横須賀市)、「環境緑地学入門—理論と実際」(コロナ社)、「植生景観とその管理」(東京農大出版会) などがある。



## 矢ヶ崎 朋樹 (やがさき ともき)

地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 研究員

博士 (環境学) (横浜国立大学)

1973年、神奈川県生まれ。1997年横浜国立大学教育学部卒業後、(財)国際生態学センター研究員(1998-2007年)を経て、現職。IGES-JISEでは「地域生態系の構造と動態およびその評価に関する研究」を担当し、生物多様性や植物利用にまつわる村落住民の知恵・技術の実態把握や生態系サービスの評価に係る調査・研究を進めている。研究員着任当初から人材育成事業にたずさわって、研修・講座等の企画立案から実践指導まで幅広く取り組んでいる。本研修ではコースリーダーを務め、全プログラムに同行する。

## 過去の研修のようす

—昨年開催された生態学研修 (基礎コース) のひとこま—



植物社会学に関する室内講義



植生調査に関する野外講義&実習



植物の調べ方 (実習)



奥田講師による講義

**参加者みなさまの声 (アンケートより)** ◇野外での植生調査法を具体的に教えていただき、よくわかりました。自分でも身近なところから始めてみようと思った。◇フィールドワークでの地点えらびなどがよくわかり、とても勉強になった。◇広い植生を知ることで、派生する研究を考えるチャンスとなった。◇今までは何となく「生態学」をとらえていましたが、その必要な基盤の重要性を身にしみ感じ、これからの取り組みをどうしようかと悩むのが、今回の正直な感想です。

**主催者より** 本コースは全プログラム (3日間) にご参加の方を優先的に申し込みを受け付けます。6月29日時点で定員に達していない場合は、単日参加のお申し込み (一般5,000円/日、学生2,500円/日) を受け付けます。